

## 2020年7月期 決算短信〔日本基準〕（非連結）

2020年9月10日

上場会社名 ラクスル株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 4384 URL <https://corp.raksul.com>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長CEO (氏名) 松本 恭攝  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役CFO (氏名) 永見 世央 TEL 03(6629)4893  
 定時株主総会開催予定日 2020年10月27日 配当支払開始予定日 ー  
 有価証券報告書提出予定日 2020年10月28日  
 決算補足説明資料作成の有無：有  
 決算説明会開催の有無：有

(百万円未満切捨て)

### 1. 2020年7月期の業績（2019年8月1日～2020年7月31日）

#### (1) 経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年7月期	21,494	25.2	△244	—	△368	—	△494	—
2019年7月期	17,168	53.6	143	54.6	130	201.2	69	350.2

	1株当たり 当期純利益	潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	自己資本 当期純利益率	総資産 経常利益率	売上高 営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
2020年7月期	△17.64	—	△7.3	△2.6	△1.1
2019年7月期	2.51	2.38	1.0	1.4	0.8

(参考) 持分法投資損益 2020年7月期 ー百万円 2019年7月期 ー百万円

#### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2020年7月期	19,379	6,801	34.5	236.73
2019年7月期	9,246	6,809	73.6	244.88

(参考) 自己資本 2020年7月期 6,692百万円 2019年7月期 6,808百万円

#### (3) キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
2020年7月期	△126	△283	9,956	15,451
2019年7月期	11	△266	△206	5,904

### 2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向	純資産 配当率
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
2019年7月期	—	0.00	—	0.00	0.00	—	—	—
2020年7月期	—	0.00	—	0.00	0.00	—	—	—
2021年7月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00	—	—	—

### 3. 2021年7月期の業績予想（2020年8月1日～2021年7月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		non-GAAP 営業利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
通期	27,000 ～28,000	25.6 ～30.3	△150 ～50	—	300 ～500	—

(注) 2021年7月期の業績予想については、レンジ形式により開示しております。

なお、業績予想に関する事項は、添付資料P. 5「1. 経営成績の概況(4) 今後の見通し」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(2) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数

2020年7月期	28,270,090株	2019年7月期	27,805,200株
2020年7月期	1,171株	2019年7月期	32株
2020年7月期	28,014,294株	2019年7月期	27,678,086株

※ 決算短信は公認会計士又は監査法人の監査の対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.5「1. 経営成績等の概況（4）今後の見通し」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	2
(1) 当期の経営成績の概況 .....	2
(2) 当期の財政状態の概況 .....	4
(3) 当期のキャッシュ・フローの概況 .....	4
(4) 今後の見通し .....	5
2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方 .....	6
3. 財務諸表及び主な注記 .....	7
(1) 貸借対照表 .....	7
(2) 損益計算書 .....	9
(3) 株主資本等変動計算書 .....	10
(4) キャッシュ・フロー計算書 .....	11
(5) 財務諸表に関する注記事項 .....	12
(継続企業の前提に関する注記) .....	12
(追加情報) .....	12
(セグメント情報等) .....	13
(1株当たり情報) .....	16
(重要な後発事象) .....	17

1. 経営成績等の概況

(1) 当期の経営成績の概況

当社は、当事業年度より、事業ごとの収益性及び投資判断明確化のため、セグメント構成の見直しをおこない、当社サービスブランド名に合わせ、「印刷事業」を「ラクスル」に、「運送事業」を「ハコベル」にセグメント名称を変更いたしました。

また、これまで広告サービス事業は集客支援の一部として「印刷事業」の中に入れておりましたが、「ノバセル事業」として区分いたしました（以下 参考：セグメント変更のイメージ参照）。これは、新たにTVCM広告のプラットフォームである「ノバセル」をリリースしたことで、「ラクスル」、「ハコベル」に続く新規事業として適切に表現するとともに、各セグメントにおける売上高及び利益をより合理的に認識するためであります。

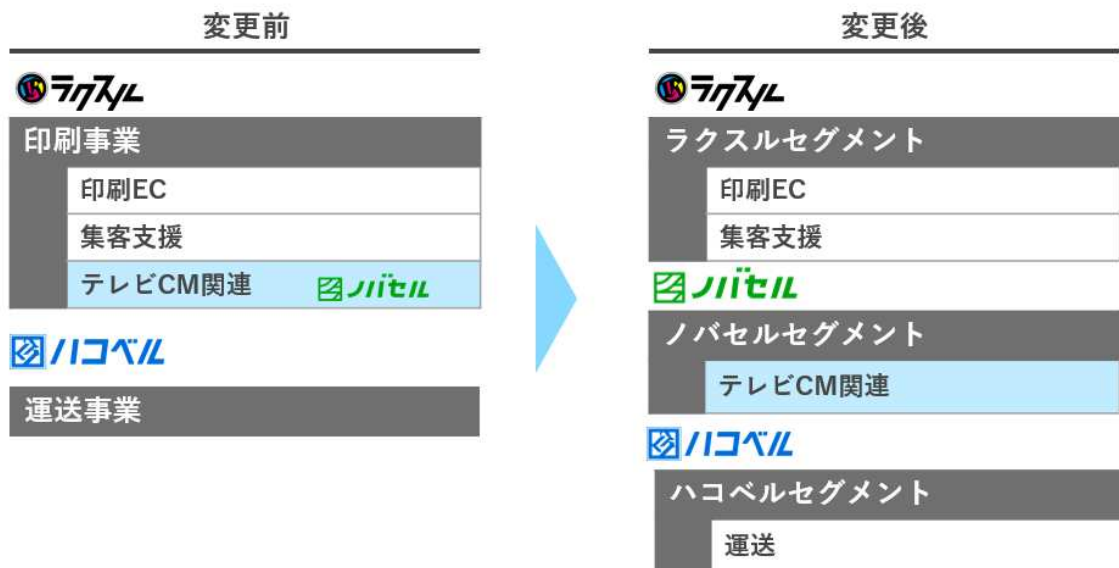
この結果、当事業年度より、報告セグメントを従来の「印刷事業」「運送事業」の2区分から、「ラクスル」「ノバセル」「ハコベル」の3区分に変更しております。今後は、「ラクスル」、「ノバセル」及び「ハコベル」の3セグメントにおいて、事業基盤の強化及び収益力の向上に取り組んでまいります。

当事業年度におけるわが国経済は、消費増税による景気後退局面に差し掛かっていた中、新型コロナウイルス感染症の拡大が全世界的に猛威を振るい、日本国内でも緊急事態宣言による外出自粛要請を受けて景気の減速傾向が一層強まる結果となりました。

このような状況の中、当社は、「仕組みを変えれば世界はもっと良くなる」というビジョンの下、主に印刷・集客支援のシェアリングプラットフォーム「ラクスル」、TVCM等の広告のプラットフォーム「ノバセル」、物流のシェアリングプラットフォーム「ハコベル」を運営してまいりました。

当事業年度の売上高は21,494百万円（前事業年度比25.2%増）、営業損失は244百万円（前事業年度は営業利益143百万円）、経常損失は368百万円（前事業年度は経常利益130百万円）、当期純損失は494百万円（前事業年度は当期純利益69百万円）となりました。

参考：セグメント変更のイメージ



セグメント毎の状況は、次のとおりであります。

### ラクスルセグメント

「ラクスル」の当事業年度のトピックスは以下のとおりであります。

①紙以外の印刷EC領域への本格参入

シール、ノベルティ、パッケージ等、紙以外の印刷EC領域におけるラインアップ拡大に注力し、売上に占める比率を拡大いたしました。

②サブライブラットフォームの高収益化

商材や納期に応じて提携先の印刷工場へ自動最適発注を行うアルゴリズムの開発、および提携先ネットワークの継続的な拡大により、売上総利益率を向上いたしました。

③印刷データの自動チェック機能の進化

業界で初めて、ページ数の多い冊子の印刷入稿データを自動でチェックする機能を開発、リリースいたしました。これにより、顧客の利便性向上と生産性の改善を実現いたしました。

この結果、売上高は16,330百万円（前事業年度比12.9%増）、セグメント利益は1,340百万円（前事業年度比2.1%増）となりました。

### ノバセルセグメント

「ノバセル」の当事業年度のトピックスは以下のとおりであります。

①大都市圏におけるCM取り扱いを強化

ローカルエリアに加え、関東・関西・中京エリア等大都市圏の放映案件が増加し、売上高の拡大に寄与いたしました。

②「運用型TVCM」サービスの開始

企画～制作～放映～分析までをワンストップで実施し、PDCAサイクルを回すことができる運用型TVCMのサービスを開始いたしました。これにより、顧客満足度の上昇とリピートユーザーの増加を実現いたしました。

③SaaSサービス「ノバセルアナリティクス」のリリース

番組別、クリエイティブ別にTVCMの効果測定が可能となるツール「ノバセルアナリティクス」を開発、リリースいたしました。リリース直後より有償での利用が広がっており、今後も売上の拡大および売上総利益率の向上に寄与する見込みであります。

この結果、売上高は2,853百万円（前事業年度比167.4%増）、セグメント利益は4百万円（前事業年度比93.3%減）となりました。

### ハコベルセグメント

「ハコベル」の当事業年度のトピックスは以下のとおりであります。

①ソリューション提供による顧客のコスト削減

大口顧客に対してルート最適化等、顧客のコストを削減するソリューションを提供することにより、発注頻度が上昇し、売上高の拡大に寄与いたしました。

②マッチングシステムの進化（スマート依頼）

過去の蓄積データを活用して、運送会社への発注内容および発注価格を最適化するアルゴリズムを開発、導入いたしました。これにより、車両手配までのリードタイム短縮と売上総利益率の向上を実現いたしました。

③運行管理システムをSaaSサービスとして有償導入開始

従来のマッチングビジネスに加え、運行管理システムをSaaSサービスとして提供するビジネスモデルの展開を開始いたしました。今後、売上総利益率の向上に寄与する見込みであります。

この結果、売上高は2,186百万円（前事業年度比41.7%増）、セグメント損失は370百万円（前事業年度はセグメント損失161百万円）となりました。

## (2) 当期の財政状態の概況

## ①流動資産

当事業年度末における流動資産は18,023百万円となり、前事業年度末に比べ10,041百万円増加いたしました。これは主に現金及び預金が9,546百万円増加したことに加え、売上高の拡大に伴い売掛金が330百万円増加したことによるものであります。

## ②固定資産

当事業年度末における固定資産は1,356百万円となり、前事業年度末に比べ92百万円増加いたしました。これは主にリース資産がリース期間満了に伴い93百万円減少した一方、システムの開発投資によりソフトウェアが192百万円増加したことによるものであります。

## ③流動負債

当事業年度末における流動負債は2,405百万円となり、前事業年度末に比べ72百万円増加いたしました。これは主に借入金の返済が進み、短期借入金が140百万円減少した一方、事業規模の拡大に伴い仕入額が増加した結果、買掛金が196百万円増加したことによるものであります。

## ④固定負債

当事業年度末における固定負債は10,172百万円となり、前事業年度末に比べ10,068百万円増加いたしました。これは主に長期借入金が5,000百万円増加、転換社債型新株予約権付社債が5,043百万円増加したことによるものであります。

## ⑤純資産

当事業年度末における純資産合計は6,801百万円となり、前事業年度末に比べ8百万円減少いたしました。これは主に資本金が193百万円、資本準備金が193百万円及び新株予約権が108百万円増加した一方、当期純損失を494百万円計上したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は34.5%（前事業年度末は73.6%）となりました。

## (3) 当期のキャッシュ・フローの概況

当事業年度における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前事業年度末に比べ9,546百万円増加し、当事業年度末には15,451百万円となりました。

当事業年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

## （営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果使用した資金は126百万円（前事業年度は11百万円の獲得）となりました。これは主に、税引前当期純損失が388百万円となった一方、減価償却費で170百万円、株式報酬費用で84百万円計上したことによるものであります。

## （投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は283百万円（前事業年度は266百万円の使用）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出26百万円、無形固定資産の取得による支出224百万円、子会社株式の取得による支出31百万円によるものであります。

## （財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果得られた資金は9,956百万円（前事業年度は206百万円の使用）となりました。これは主に、長期借入れによる収入5,000百万円、新株予約権付社債の発行による収入4,990百万円があったことによるものであります。

## (4) 今後の見通し

2021年7月期におきましては、当社ビジョン「仕組みを変えれば世界はもっと良くなる」の実現のために成長を最重視するスタンスに変更はありません。前事業年度に最適化したコスト構造は維持しつつ、変動費を中心とした再投資を継続する方針であります。また、各事業セグメントのポリシーについては以下のとおりであります。ラクスルセグメントにおいては、売上総利益及びセグメント利益を重要指標として設定し、利益の範囲内で事業内再投資を行うことでセグメント利益の拡大を継続する方針としております。ノバセルセグメントにおいては、売上高及び売上総利益率を重要指標として設定し、主に事業で創出された利益の中での投資実行を行う方針のため、赤字幅は限定的と見込んでおります。ハコベルセグメントにおいても、売上高及び売上総利益率を重要指標として設定し、一定の投資ガバナンス・赤字幅のコントロールを実施しながら、売上高の高い成長を重視しております。また2020年7月期第4四半期に続き売上総利益率は緩やかに改善する見込みであります。

上記の考えに基づき、売上高は27,000百万円～28,000百万円（前事業年度比25.6%～30.3%増）、売上総利益は6,450百万円～6,900百万円（前事業年度比30.9%～40.0%増）を見込んでおり、引き続き最重視している売上総利益については、売上総利益率の継続的な改善により売上高以上の成長が実現可能と考えております。営業利益につきましては成長を重視し一定の再投資を継続することから△150百万円～50百万円、株式報酬費用を足し戻したnon-GAAP営業利益は300百万円～500百万円を見込んでおります。なお本見通しは、今期中に新型コロナウイルス第二波による大規模な緊急事態宣言が再発令されないことを前提としております。

2. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社は連結財務諸表を作成していないため、国際会計基準に基づく財務諸表を作成するための体制整備の負担等を考慮し、日本基準に基づき財務諸表を作成しております。



3. 財務諸表及び主な注記

(1) 貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年7月31日)	当事業年度 (2020年7月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	5,904,840	15,451,377
受取手形	81,863	22,915
電子記録債権	1,753	12,452
売掛金	1,826,588	2,157,262
原材料及び貯蔵品	4,945	36,983
前払費用	92,458	188,673
その他	69,505	154,246
貸倒引当金	△114	△637
流動資産合計	7,981,842	18,023,273
固定資産		
有形固定資産		
建物	217,366	207,716
減価償却累計額	△45,031	△62,411
建物(純額)	172,335	145,305
機械及び装置	581,336	751,336
減価償却累計額	△221,217	△372,851
機械及び装置(純額)	360,118	378,484
工具、器具及び備品	58,102	72,003
減価償却累計額	△30,032	△41,802
工具、器具及び備品(純額)	28,069	30,200
リース資産	170,000	—
減価償却累計額	△76,500	—
リース資産(純額)	93,500	—
有形固定資産合計	654,023	553,990
無形固定資産		
ソフトウェア	105,446	297,625
ソフトウェア仮勘定	67,425	47,659
無形固定資産合計	172,872	345,285
投資その他の資産		
関係会社株式	—	31,683
投資有価証券	128,352	124,256
長期前払費用	—	126,665
差入保証金	235,071	174,662
繰延税金資産	74,144	—
投資その他の資産合計	437,568	457,267
固定資産合計	1,264,463	1,356,543
資産合計	9,246,306	19,379,817

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年7月31日)	当事業年度 (2020年7月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	1,458,493	1,654,786
短期借入金	180,000	40,000
1年内返済予定の長期借入金	91,430	—
リース債務	41,402	—
未払金	332,068	500,595
未払法人税等	49,974	30,902
未払消費税等	53,557	63,715
前受金	41,476	70,473
その他	84,416	45,273
流動負債合計	2,332,818	2,405,745
固定負債		
転換社債型新株予約権付社債	—	5,043,333
長期借入金	—	5,000,000
資産除去債務	103,716	104,495
繰延税金負債	—	24,714
固定負債合計	103,716	10,172,543
負債合計	2,436,535	12,578,288
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,958,453	2,152,347
資本剰余金		
資本準備金	4,765,791	4,959,686
資本剰余金合計	4,765,791	4,959,686
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	85,057	△409,078
利益剰余金合計	85,057	△409,078
自己株式	△101	△249
株主資本合計	6,809,201	6,702,705
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△284	△10,542
評価・換算差額等合計	△284	△10,542
新株予約権	854	109,364
純資産合計	6,809,770	6,801,528
負債純資産合計	9,246,306	19,379,817

## (2) 損益計算書

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2018年8月1日 至 2019年7月31日)	当事業年度 (自 2019年8月1日 至 2020年7月31日)
売上高	17,168,658	21,494,598
売上原価	13,224,435	16,566,457
売上総利益	3,944,222	4,928,140
販売費及び一般管理費	3,800,366	5,172,422
営業利益又は営業損失(△)	143,856	△244,281
営業外収益		
受取利息	73	6,886
受取配当金	780	780
雑収入	2,647	5,835
営業外収益合計	3,500	13,502
営業外費用		
支払利息	8,444	29,193
社債発行費	—	59,414
投資事業組合運用損	1,824	3,451
上場関連費用	4,000	9,111
事務所退去費用	—	21,527
雑損失	2,844	14,951
営業外費用合計	17,113	137,649
経常利益又は経常損失(△)	130,243	△368,429
特別利益		
固定資産売却益	239	—
特別利益合計	239	—
特別損失		
固定資産除却損	7,131	20,292
関係会社株式評価損	45,712	—
特別損失合計	52,843	20,292
税引前当期純利益又は税引前当期純損失(△)	77,640	△388,722
法人税、住民税及び事業税	29,423	6,383
法人税等調整額	△21,381	99,029
法人税等合計	8,041	105,413
当期純利益又は当期純損失(△)	69,598	△494,135

(3) 株主資本等変動計算書

前事業年度 (自 2018年8月1日 至 2019年7月31日)

(単位: 千円)

	株主資本						評価・換算差額等		新株 予約権	純資産合計	
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		自己株式	株主資本 合計	その他有 価証券評 価差額金			評価・換 算差額等 合計
		資本準備金	資本剰余金 合計	その他利益 剰余金 繰越利益 剰余金	利益剰余金 合計						
当期首残高	1,926,045	4,733,383	4,733,383	15,459	15,459	—	6,674,887	—	—	910	6,675,797
当期変動額											
新株の発行	32,380	32,380	32,380				64,760				64,760
当期純利益				69,598	69,598		69,598				69,598
自己株式の取得						△101	△101				△101
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	28	28	28				56	△284	△284	△56	△284
当期変動額合計	32,408	32,408	32,408	69,598	69,598	△101	134,313	△284	△284	△56	133,973
当期末残高	1,958,453	4,765,791	4,765,791	85,057	85,057	△101	6,809,201	△284	△284	854	6,809,770

当事業年度 (自 2019年8月1日 至 2020年7月31日)

(単位: 千円)

	株主資本						評価・換算差額等		新株 予約権	純資産合計	
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		自己株式	株主資本 合計	その他有 価証券評 価差額金			評価・換 算差額等 合計
		資本準備金	資本剰余金 合計	その他利益 剰余金 繰越利益 剰余金	利益剰余金 合計						
当期首残高	1,958,453	4,765,791	4,765,791	85,057	85,057	△101	6,809,201	△284	△284	854	6,809,770
当期変動額											
新株の発行	193,894	193,894	193,894				387,789				387,789
当期純利益				△494,135	△494,135		△494,135				△494,135
自己株式の取得						△148	△148				△148
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)								△10,257	△10,257	108,510	98,252
当期変動額合計	193,894	193,894	193,894	△494,135	△494,135	△148	△106,495	△10,257	△10,257	108,510	△8,242
当期末残高	2,152,347	4,959,686	4,959,686	△409,078	△409,078	△249	6,702,705	△10,542	△10,542	109,364	6,801,528

## (4) キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2018年8月1日 至 2019年7月31日)	当事業年度 (自 2019年8月1日 至 2020年7月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前当期純利益又は税引前当期純損失 (△)	77,640	△388,722
減価償却費	130,860	170,989
株式報酬費用	—	84,493
関係会社株式評価損	45,712	—
投資事業組合運用損益 (△は益)	1,824	3,451
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	100	523
受取利息及び受取配当金	△853	△7,666
支払利息	8,444	29,193
社債発行費	—	59,414
有形固定資産売却損益 (△は益)	△239	—
固定資産除却損	7,131	20,292
売上債権の増減額 (△は増加)	△770,485	△282,423
仕入債務の増減額 (△は減少)	551,489	196,293
未払金の増減額 (△は減少)	81,568	162,470
その他	△87,381	△113,067
小計	45,811	△64,756
利息及び配当金の受取額	853	999
利息の支払額	△7,540	△27,221
法人税等の支払額	△27,314	△35,259
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>11,810</b>	<b>△126,238</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△52,263	△26,935
有形固定資産の売却による収入	1,200	—
無形固定資産の取得による支出	△136,828	△224,463
差入保証金の差入による支出	△57,747	△2,599
差入保証金の回収による収入	329	11,815
投資有価証券の取得による支出	△40,289	△9,784
子会社株式の取得による支出	—	△31,683
子会社の清算による収入	19,176	—
短期貸付けによる支出	—	△47,500
短期貸付金の回収による収入	—	47,500
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△266,422</b>	<b>△283,651</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の返済による支出	△40,000	△140,000
長期借入れによる収入	—	5,000,000
長期借入金の返済による支出	△194,868	△91,430
新株予約権の行使による株式の発行による収入	64,760	112,718
新株予約権の発行による収入	—	84,700
自己株式の取得による支出	△101	△148
リース債務の返済による支出	△36,556	—
新株予約権付社債の発行による収入	—	4,990,585
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△206,765</b>	<b>9,956,425</b>
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△461,377	9,546,536
現金及び現金同等物の期首残高	6,366,217	5,904,840
現金及び現金同等物の期末残高	5,904,840	15,451,377

- (5) 財務諸表に関する注記事項  
(継続企業の前提に関する注記)  
該当事項はありません。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症拡大の影響について)

新型コロナウイルス感染症の拡大により、経済や企業活動に甚大な影響を与えており、依然として国内経済は先行き不透明な状況が続くものと推測しております。

当社の業績に与える影響については、2020年12月までは一時的な需要低下が継続する可能性があるものの、以降は回復へ向かうものと仮定し、繰延税金資産の回収可能性や固定資産の減損の判定を実施しております。

なお、当該見積りは新型コロナウイルス感染症の収束時期等が不透明なため不確実性は高く、今後状況が変化した場合には、上記の見積りの結果に影響し、翌期以降の当社の財政状態及び経営成績に影響を与える可能性があります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

(1) 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は「ラクスル」、「ノバセル」及び「ハコベル」の3つを報告セグメントとしております。

「ラクスル」は印刷・集客支援のシェアリングプラットフォーム「ラクスル」を運営しております。「ノバセル」はTVCM広告のプラットフォーム「ノバセル」を運営しております。「ハコベル」は物流のシェアリングプラットフォーム「ハコベル」を運営しております。

(2) 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、財務諸表を作成するために採用される会計方針に準拠した方法であります。報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

なお、当社では事業セグメントへの資産の配分は行っておりません。

(3) 報告セグメントの変更等に関する事項

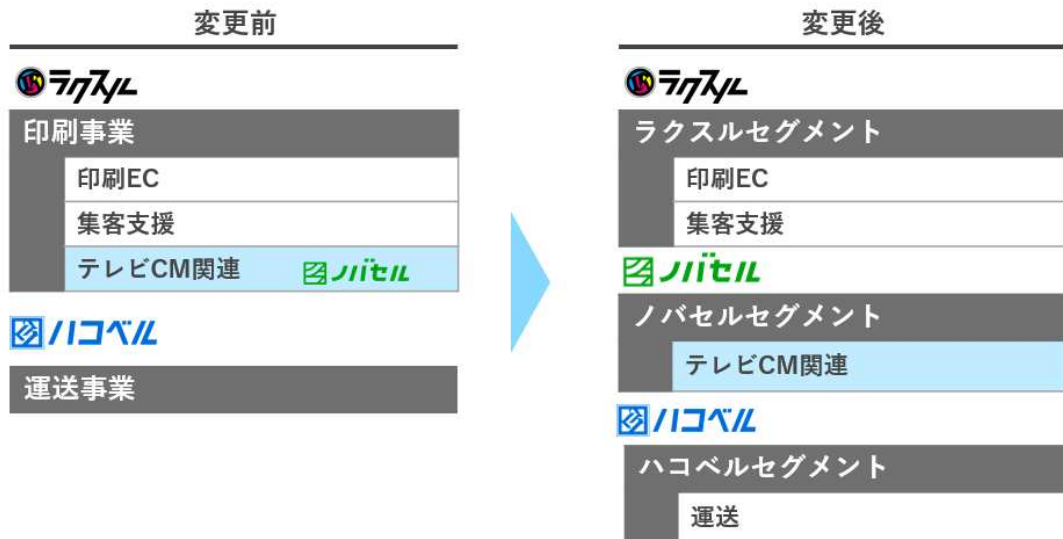
当事業年度より、事業ごとの収益性及び投資判断明確化のため、セグメント構成の見直しをおこない、当社サービスブランド名に合わせ、「印刷事業」を「ラクスル」に、「運送事業」を「ハコベル」にセグメント名称を変更いたしました。

また、これまで広告サービス事業は集客支援の一部として「印刷事業」の中に含めておりましたが、「ノバセル」として区分いたしました（以下 参考：セグメント変更のイメージ参照）。これは、新たにTVCM広告のプラットフォームである「ノバセル」をリリースしたことで、「ラクスル」、「ハコベル」に続く新規事業として適切に表現するとともに、各セグメントにおける売上高及び利益をより合理的に認識するためであります。

この結果、当事業年度より、報告セグメントを従来の「印刷事業」「運送事業」の2区分から、「ラクスル」「ノバセル」「ハコベル」の3区分に変更しております。

なお、前事業年度のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分方法により作成したものを開示しております。

参考：セグメント変更のイメージ



(4) 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報  
前事業年度(自 2018年8月1日 至 2019年7月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2. 4	財務諸表 計上額 (注) 3
	ラクスル	ノバセル	ハコベル	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	14,462,876	1,067,396	1,542,471	17,072,744	95,914	17,168,658	—	17,168,658
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	—	152	152	—	152	△152	—
計	14,462,876	1,067,396	1,542,624	17,072,897	95,914	17,168,811	△152	17,168,658
セグメント利益 又は損失(△)	1,313,191	74,399	△161,433	1,226,158	27,434	1,253,592	△1,109,736	143,856
その他の項目								
減価償却費	95,693	610	3,934	100,238	—	100,238	30,621	130,860
有形固定資産 及び 無形固定資産 の増加額	55,156	3,665	44,904	103,727	—	103,727	26,442	130,169

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、システム構築支援事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△1,109,736千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、財務諸表の営業利益と調整を行っております。

4. その他の項目の調整額は、全社資産に係るものであります。



当事業年度（自 2019年8月1日 至 2020年7月31日）

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2. 4	財務諸表 計上額 (注) 3
	ラクスル	ノバセル	ハコベル	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	16,330,308	2,853,831	2,186,047	21,370,187	124,411	21,494,598	—	21,494,598
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—
計	16,330,308	2,853,831	2,186,047	21,370,187	124,411	21,494,598	—	21,494,598
セグメント利益 又は損失 (△)	1,340,790	4,986	△370,333	975,443	44,586	1,020,030	△1,264,312	△244,281
その他の項目								
減価償却費	113,986	2,025	15,777	131,789	—	131,789	39,200	170,989
有形固定資産 及び 無形固定資産 の増加額	332,463	29,394	103,010	464,868	—	464,868	28,239	493,107

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、システム構築支援事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失 (△) の調整額△1,264,312千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失 (△) は、財務諸表の営業損失と調整を行っております。

4. その他の項目の調整額は、全社資産に係るものであります。

(1株当たり情報)

	前事業年度 (自 2018年8月1日 至 2019年7月31日)	当事業年度 (自 2019年8月1日 至 2020年7月31日)
1株当たり純資産額	244.88円	236.73円
1株当たり当期純利益又は 1株当たり当期純損失(△)	2.51円	△17.64円
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	2.38円	－円

(注) 1. 当事業年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり当期純損失であるため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純利益又は1株当たり当期純損失及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 (自 2018年8月1日 至 2019年7月31日)	当事業年度 (自 2019年8月1日 至 2020年7月31日)
1株当たり当期純利益又は 1株当たり当期純損失(△)		
当期純利益又は当期純損失(△) (千円)	69,598	△494,135
普通株主に帰属しない金額(千円)	－	－
普通株式に係る当期純利益又は当期純損失 (△) (千円)	69,598	△494,135
普通株式の期中平均株式数(株)	27,678,086	28,014,294
潜在株式調整後1株当たり当期純利益		
当期純利益調整額(千円)	－	－
普通株式増加数(株)	1,519,828	－
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整 後1株当たり当期純利益の算定に含めな かった潜在株式の概要	－	－

(重要な後発事象)

(株式取得による関連会社化)

当社は、2020年9月10日開催の取締役会において、株式会社ペライチの株式取得に伴う投資契約締結について決議いたしました。

(1) 株式取得の目的

WEBサイトを活用した集客支援などの販売促進を向上させることで、当社の「ラクスル」サービスとの相乗効果が期待でき、当社の企業価値向上に資すると判断したためであります。

(2) 株式取得先の名称、事業内容

名 称 : 株式会社ペライチ

事業内容 : ホームページ作成SaaS「ペライチ」の運営

(3) 株式取得価額、取得後の持分比率

株式取得価額 : 契約上の守秘義務により非開示とさせていただきます。

取得後の持分比率 : 49%

(4) 支払資金の調達方法

自己資金により充当

(5) 株式取得の時期

2020年10月予定